

相互交流

第39回

18日間

フレンドリーな日本語科のある学校で留学体験

オーストラリア・スクール体験 & ホームステイ



プログラム参加費

356,000円

旅行代金

242,000円

期間

2019年7月29日(月)
～8月15日(木)
*出発前日が事前研修会です。

対象・定員

中学2年生～高校3年生
10名(最少催行5名)

研修地

ビクトリア州ノックス市

協力

Fairhills High School
(公立中高一貫校)

利用航空会社

日本航空(直行便)

*プログラム参加費・旅行代金の詳細は『事業概要』をご参照下さい。

現地情報

- ◆気候 「1日の中に四季がある」と例えられるほどバラエティに富んでおり、暖かい日があります
- ◆気温 最高気温14℃ 最低気温6℃(7・8月)
- ◆時差 日本より1時間早いです
- ◆通貨 オーストラリアドル
- ◆概要 メルボルン中心部から電車や車で1時間ほどの静かで自然豊かな住宅地です
- ◆食事 1日3食(平日の昼食はホストが作るお弁当)
- ◆通学 ホストファミリーと車・バス・徒歩で通学

特色

- ◆ホストファミリーは原則1家庭1～2名
- ◆日本語科の生徒が、心待ちにしています
- ◆中・高校生のパティと一緒に授業を受けます(国語・数学・社会・日本語・音楽・体育・美術・家庭科など)
- ◆1時間ごとにクラスを移動するので、日本の大学生の様な履修スタイルで授業を受けます
- ◆遠足でペンギンやコアラ保護区見学
- ◆学校に日本人教師も常駐
- ◆通年を通した相互交流開始から39年目になります

プログラム(予定)

7/28 (日)	夕方	事前研修会
7/29 (月)	午前	成田空港発
	夜	メルボルン空港到着(ホテル泊)
7/30 (火)	日中	スクール体験・ウェルカムランチ
	夕方	ホストファミリーとマッチング
7/31 (水)	終日	スクール体験
8/1 (木)	終日	スクール体験
8/2 (金)	日中	コアラ保護区見学
	夕方	ペンギン保護区見学
	終日	ホストファミリーと過ごす
8/3 (土)	終日	ホストファミリーと過ごす
8/4 (日)	終日	スクール体験
8/5 (月)	終日	スクール体験
8/6 (火)	終日	スクール体験
8/7 (水)	午前	スクール体験
	午後	ノックス市役所表敬訪問
8/8 (木)	終日	小学校訪問(日本文化紹介)
8/9 (金)	終日	メルボルン市内見学
		ビクトリアマーケット訪問
8/10 (土)	終日	ホストファミリーと過ごす
8/11 (日)	終日	ホストファミリーと過ごす
8/12 (月)	終日	モーニングトン半島見学
8/13 (火)	日中	学校体験
	夕方	さよならパーティー
8/14 (水)	日中	学校体験
	深夜	メルボルン空港出発
8/15 (木)	午前	成田空港着、通関後解散

*天候によりスケジュールが変更になる可能性もあります。



体験談

京都府 中3 女子

今年の夏休みは、本当に最高だった。初めてのオーストラリア、初めてのホームステイ。ホストスチューデントとのマッチングは少し緊張したが、モリーがコアラのぬいぐるみをくれて、一気に距離が縮まった気がした。私が一番楽しかったのは、学校体験だ。ホストスチューデントとともに登校し、一緒に授業を受ける。周りを飛び交う言葉は全て英語で、初めは何を言っているかもわからなかった。次第に慣れていくと、授業の内容も理解できるようになり、とても嬉しかった。学校でいくつもの発見があった。特にすごいと思ったのは、殆どの授業で生徒はコンピューターで学習をしていたが、みんな遊ぶことなく真剣にやっていたことだ。生徒たちに意識があるからこそ、学校でもあそこまで自由が許されているのだろう。学校ではみんながフレンドリーに話しかけてくれたので、嬉しかった。ホストファミリーにも、色々なところへ連れて行ってもらった。特に印象的だったところは、映画館だ。サスペンスの映画を見に行ったのだが、面白いところではみんなが大声で笑っていたり、“Oh, my god!”など、口ぐちに言っていて、日本と全然雰囲気違った。ポップコーンも日本の二倍ほどの量で、驚いた。沢山の人が優しく接してくれたが、話をする際、私がいつも痛感したことがあった。英語力が足りないことは言うまでもないが、もっと大切なことに欠けていた。「決断力」だ。相手の言っていることは分かっても、自分の中で答えが出ずに考え込んでしまうことが多々あった。その結果、相手には繰り返し話してもらうことになり、困らせてしまった。日本でも、人の顔をうかがって物事を決める癖があったのだが、今回の体験で自分の意見を持つということの大切さを実感した。最後にみんなで見たメルボルンの夜景は今も目に焼き付いている。あの素晴らしい景色を、またみんなと一緒に見ることが出来たらいいな。本当にありがとう。